

静止気象衛星事業（ひまわり6号・7号）

0. 担当部署：気象庁観測部気象衛星課

事業開始年度：平成11年度

1. 事業目的

台風や集中豪雨等の自然災害による被害の防止や軽減を図るため、静止気象衛星により地球上の広範囲を365日24時間常に監視する。また、世界気象機関(WMO)の提唱する世界気象監視計画(WWW)の重要な柱となる世界気象衛星観測網構築の一翼を担い、特に東アジア・西太平洋の各国へ防災情報に資する重要な気象情報として衛星画像を直接提供する。

2. 事業概要

静止気象衛星は東経140度付近に位置し、365日24時間常に地球の同一面を監視し、連続する大気の状態を観測する。同衛星では、30分毎に観測したデータを地上へ送信し、地上設備で衛星からのデータを受信・処理する。観測データは、台風や集中豪雨等の自然災害による被害の防止や軽減を図るために用いる他、数値予報の初期値として予報精度向上のために利用される。また、観測データから作成する衛星画像は、天気解説等に利用されるとともに、同衛星を通じて近隣諸国へ配信され東アジアや西太平洋などにおいても防災情報に利用される情報でもある。

このように本業務は、静止気象衛星により観測したデータを衛星から送信し、地上設備により受信・処理を行い、庁内利用者のみならず国内外の関係機関へ配信するまでが一連の業務である。

3. 事業期間・総事業費（事業開始から事業終了（見込み）まで）

[単位：百万円]

| 年度 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 |
|----|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 予算 | 12 (108) | 3,537 (14,681) | 3,617 (14,058) | 3,601 (23,560) | 3,420 (14,455) | 3,791 (19,116) |

| 年度 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|----|-------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 予算 | 3,294 (18,715) | 1,383 (4,175) | 1,338 (2,827) | 1,337 (2,826) | 1,411 (2,740) | 1,411 (2,586) |

| 年度 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | 合計 |
|----|------------------|------------------|------------------|------------------|----------------|---------------------|
| 予算 | 1,351 (2,526) | 1,400 (2,575) | 1,400 (2,575) | 1,400 (2,575) | 500 (1,646) | 34,203 (131,744) |

※ H24 以降は見込額

※括弧内は航空衛星事業に係る経費との合算値

4. どのような計画や目標をたててやっているのか？その計画や目標の達成度は？

ひまわり6号・7号の気象観測機能の運用については、平成27年度に、次期衛星のひまわり8号に引き継ぎ、ひまわり7号は待機運用を予定している。現在のところ、安定した運用を実施している。

5. 成果及び事業評価

平成16年度にひまわり6号、平成17年度にひまわり7号を打ち上げ、安定した運用を実施している。

6. 関係省庁との協力体制

航空管制と気象業務の複合衛星であり、衛星の管制については主に航空衛星センターにて行うこととし、当庁はそのバックアップを担っている。

7. 主な委託先とその分担

なし。

静止地球環境観測衛星事業（ひまわり8号・9号）

0. 担当部署：気象庁観測部気象衛星課

事業開始年度：平成21年度

1. 事業目的

国民の安心・安全に寄与する防災情報の作成及び地球環境の監視のため、静止気象衛星により地球上の広範囲を365日24時間常に監視する。また、世界気象機関(WMO)の提唱する世界気象監視計画(WWW)の重要な柱となる世界気象衛星観測網構築の一翼を担い、特に東アジア・西太平洋の各国へ防災情報に資する重要な気象情報として衛星画像を提供する。

2. 事業概要

静止地球環境観測衛星は東経140度付近に位置し、365日24時間常に地球の同一面を監視し、連続する大気の状態を観測する計画である。同衛星では、10分毎に観測したデータを地上へ送信し（高頻度観測は2.5分毎）、地上設備で衛星からのデータを受信・処理する。観測データは、台風や集中豪雨等の自然災害による被害の防止や軽減を図るために用いる他、数値予報の初期値として予報精度向上、より高精度な海面水温の観測等地球環境の監視のために利用される。また、観測データから作成する衛星画像は、天気解説等に利用されるとともに、近隣諸国へ配信され東アジアや西太平洋などにおいても防災情報に利用される情報でもある。

衛星の運用に関しては、民間事業者（気象衛星ひまわり運用事業株式会社）が既存のノウハウを活用して衛星を運用するPFI方式を用いる。気象庁は当該事業者から安定的に観測データを取得し気象業務を行う。

3. 事業期間・総事業費（事業開始から事業終了（見込み）まで）

[単位：百万円]

| | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年度 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 |
| 予算 | 7,732 | 7,545 | 6,814 | 7,900 | 7,900 | 6,700 | 7,800 | 7,800 | 2,800 |

| | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年度 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | H38 |
| 予算 | 2,800 | 2,800 | 2,800 | 2,800 | 2,800 | 2,800 | 2,800 | 2,800 | 2,800 |

| | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|--|--|--|--|--|--------|
| 年度 | H39 | H40 | H41 | | | | | | 合計 |
| 予算 | 2,800 | 2,800 | 2,700 | | | | | | 96,492 |

※ H24 以降は見込額

4. どのような計画や目標をたててやっているのか？その計画や目標の達成度は？

平成 26 年度にひまわり 8 号、平成 28 年度にひまわり 9 号を打ち上げ、平成 27 年度からのひまわり 8 号の運用を目指し、着実な整備を進めている。

5. 成果及び事業評価

平成 21 年度より衛星本体の製造に着手し、着実に製造は進んでいる。

また、次期衛星の運用を P F I 事業により実施することとし、平成 22 年度には P F I 事業者との契約を交わし着実に準備を進めている。

6. 関係省庁との協力体制

なし。

7. 主な委託先とその分担

衛星管制、データのダウンリンク等について PFI 事業として民間事業者（気象衛星ひまわり運用事業株式会社）が実施する。